

サステナビリティアクション
『環境の日』環境啓発イベント開催」報告レポート

横浜・八景島シーパラダイス(以下、シーパラ)では6月5日(日)「環境の日」に、「環境啓発ガイドツアー」などの自然環境について考えるきっかけを提供する啓発イベントを開催しました。

「環境の日」は、1972年ストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して定められた日です。日本でも、環境の保全について考えるとともに、環境保全に関するさまざまな活動を積極的に行うきっかけになるような行事やイベント実施することとしています。シーパラでは「環境の日」に合わせ、「環境啓発ガイドツアー」の開催や、水族館『うみファーム』内の「おさかなマルシェ」において、「環境の日」限定の未利用魚※特別おたのしみ袋の販売を行うなど、多くのお客さまにとって「環境の日」が身近になるようイベントを開催しました。

イベントの目玉であった「環境啓発ガイドツアー」には当初定員の15名さまを大きく上回る30名以上のお客さまがお申込みに訪れてくださり、急遽予定にない2回目を増枠し、多くのお客さまにご参加いただきました。参加者の中には、「今日はこのガイドツアーの参加を目的にきた。」と云ってくださる方もいらっしゃいました。企画の趣旨に多くのお客さまが賛同してくださっていると感じることができました。

「環境啓発ガイドツアー」では、まず『うみファーム』において、アマモなどの海草を観察しながら、東京湾内に生息する生きものを観察するなど、生物多様性、海草の重要性などについて学びました。また『うみファーム』に流れ着く海洋ごみを実際に見ながら、海洋ごみが生きものに与える問題についてレクチャーを行いました。参加者からは「海のごみを見て悲しくなった。いろんな生きもののためにごみは持って帰るようにしたい」との声がありました。

そのあと『アクアミュージアム』まで移動し、八景島で生育し収穫されたワカメをアオウミガメに給餌する体験を行っていただきました。

使用したワカメは、地球温暖化防止対策のために行われている「ブルーカーボン事業」の一環で生育されたワカメです。「ブルーカーボン」とは、海洋生物（ワカメなどの海藻類）が吸収してくれる二酸化炭素由来の炭素のことを言います。シーパラでは、ワカメの種付け・育成・収穫体験を行うことで、地球温暖化対策に関心を向けてもらう取り組みをしています。今回はその収穫されたワカメをカメに与えることで、お客さまに「ブルーカーボン」についてもご紹介いたしました。

アオウミガメの成体は草食で、野生下ではワカメなどの藻類も食べています。シーパラでは、用意の難しい藻類に代わり、レタスなどの野菜も与えることで、生きものがより豊かにくらすよう工夫をしています。こうした「飼育生物のくらしをより豊かにすること」を「エンリッチメント」と呼び、株式会社横浜八景島で力を入れて取り組んでいます。参加者からは、「カメがワカメを食べるとは知らなかった。生きもの新たな一面を知った」といったお話がありました。

ガイドツアーの最後には、八景島周辺で採取された海草類を飼育員が「押し葉」にした葉を参加者の皆さまにプレゼントしました。この活動を通し、お客さまにより深く海や環境について理解して

いただくきっかけをご提供できたと感じることができました。

横浜・八景島シーパラダイスでは、こうした環境啓発イベントを定期的に開催することで、より多くのお客様さまに、環境や海の保全について考えるきっかけを提供してまいります。

※ 未利用魚：大きさが不揃い、漁獲量が安定しない、調理に手間がかかるなどの理由で市場に出回らない魚のことをいいます。

